

項目コード	検査項目	検査材料・量	容器	安定性 保存方法	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考			
	一般細菌塗抹鏡検	尿・喀痰／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可	グラム染色	64	2	細菌糞便材料では実施していません。			
		爪・皮膚／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可	KOH法	微生物 1					
	一般細菌培養同定	口腔・気道・呼吸器 喀痰・咽頭液／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可	培養同定	170	2 3	細菌 2 3	細菌喀痰材料ではMiller & Jones の分類(肉眼的喀痰性状の評価)をご報告します。 細菌127頁参照 日数ペロ毒素実施時の所要日数は4日となります。 保存トリコモナス、ビブリオ、キャンピロバクター、髄膜炎菌、淋菌等の培養依頼の際は常温保存にてご提出ください。 容器血液培養にはカルチャーボトルをご使用ください。 菌陰性時7日まで培養します。 菌真菌培養については陰性時2週間まで培養します。		
		消化器 糞便 または 胆汁・胃液／その他 ※容器 127頁参照	※	常		190				微生物 2 3	
		泌尿器・生殖器 尿・分泌物／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可		180				微生物 2 3	
		血液・穿刺液 穿刺液／その他 ※容器 127頁参照	※	常		220				微生物 2 3 4 5	
		その他の部位 膿・耳漏・分泌物／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可		170				微生物 2 3	
	感受性検査	1菌種	※		微量液体希釈法	180	3 4	細菌 6	項目常在細菌、真菌は実施していません。 項目128頁参照：菌種別抗菌薬セット一覧表 方法*1		
		2菌種				培養同定に同じ				230	微生物 2
		3菌種以上				※容器 127頁参照				290	微生物 2
	耐性菌検出	培養同定に同じ			微量液体希釈法等	50加算 微生物 6		算定基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産生の有無を確認した場合に加算します(目的毎にESBLの依頼がある場合のみ実施)。			
	嫌気性培養	膿・分泌物、血液・穿刺液・胆汁／その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍結 不可	嫌気培養	122加算 微生物 6 7	3 4	容器嫌気培養容器をご使用ください。			

* 1：微量液体希釈法は、各希釈段階の抗菌薬を含む液体培地に菌を接種し、培養後の液体培地の混濁を観察してMIC(最小発育阻止濃度)を測定する定量的検査方法です。
 1：染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
 2：同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、簡易培養検査は算定できません。
 3：症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、起因菌を検索する目的で異なった部位や同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主な部位または1か所のみの実施料の算定となります。

4：但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液または穿刺液」を2回算定できます。この場合、「嫌気性培養加算」は2回算定できません。
 5：穿刺液とは、胸水、腹水、髄液および関節液を指します。
 6：培養の結果、菌が検出できず実施できなかった場合は算定できません。
 7：嫌気性培養のみを行った場合は、所定の部位の細菌培養同定検査の実施料のみを算定し、嫌気性培養の加算は算定できません。

微生物

微生物学検査

期コード	検査項目	検査材料・量	容器	安定性 保存 方法	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
抗酸菌検査	抗酸菌塗抹鏡検	呼吸器系材料/ その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍 結	蛍光染色(集菌塗抹法)	50+35 微生物 12	1	検体 糞便材料では実施していません。 報告 蛍光染色で陽性の場合、チール・ネルゼン法を実施し、ガフキー号数をご報告します。 備考 128頁-1参照
	抗酸菌分離培養	呼吸器系材料/ その他 ※容器 127頁参照	※	冷 凍 結	液体培養(MGIT)	300 微生物 34		報告 陽性時随時ご報告となります。 方法 陰性時は6週まで培養します。 注意 同時依頼された塗抹検査が陽性の場合、最大8週まで監視培養します。
	抗酸菌薬剤感受性検査	菌株 ※容器 127頁参照	※	常	マイクロタイター法 (一濃度比率法)	400 微生物 5	3 週	日数 所要日数は菌分離時からの日数です。 項目 128頁-2参照 依頼 * 1
	結核菌群抗原	菌株 ※容器 127頁参照	※	常	イムノクロマトグラフィ法	291 免疫		日数 所要日数は、抗酸菌分離培養陽性報告の翌日となります。 依頼 * 1
	結核菌群同定	呼吸器系材料/ その他 または 菌株 ※容器 127頁参照	※	冷 凍 結	TaqmanPCR法	410 微生物 4	2 3	項目 127頁-1参照：抗酸菌遺伝子検査の留意点 算定 * 2
	MAC同定-DNA	呼吸器系材料/ その他 または 菌株 ※容器 127頁参照	※	冷 凍 結	TaqmanPCR法	421 微生物 6	2 3	項目 127頁-1参照：抗酸菌遺伝子検査の留意点 算定 * 2
	T-SPOT.TB (インターフェロン-γ遊離試験)	ヘパリン加血液 9	10	常	ELISPOT (Enzyme Linked Immunospot)法	594 免疫 5	3 4	依頼 依頼書に採血日時をご記入ください。 検体 採血後、規定時間内(32時間以内)に検査を実施する必要があります。 報告 * 3 検体 * 4 項目 * 5 ※04
病原性大腸菌検査	大腸菌血清型別 (大腸菌O抗原同定検査)	消化器系材料 (糞便) ※容器 127頁参照	※	常	スライド凝集法	175 免疫 89	2 3	項目 一般細菌培養同定により、大腸菌が確認された場合に実施します。
	ベロ毒素 (ベロトキシン)	※容器 127頁参照	※	常	RPLA (逆受身ラテックス凝集反応)	189 微生物 10		日数 所要日数はO抗原同定後2日後となります。

- * 1：菌株に対して行う検査のため生材料からは直接検査できません。分離培養と合わせてご依頼ください。
- * 2：保険請求の際は、それぞれ次のご記入ください。
 - ・結核菌群同定 → 結核菌群核酸検出
 - ・MAC同定-DNA → マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセルラー(MAC)核酸検出
- * 3：パネルA(ESAT-6)およびパネルB(CFP10)のスポット数を含めご報告します。
- * 4：6mLのご提出で検査は実施可能です。しかし、検査に十分な細胞(末梢血単核球)数が得られない場合は、検査不能となる場合があります。
- * 5：健診などでまとまった数の検査をご希望の場合は、あらかじめご依頼予定日を当センターにご連絡ください。
 - 1：染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
 - 2：実施料は、蛍光顕微鏡検査に集菌塗抹法の点数を加算したのになります。

- 3：検体の採取部位が異なる場合であっても、同時にまたは一連として検体を採取した場合は、1回のみ算定できます。
- 4：結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。
- 5：4薬剤以上使用した場合に限り、算定できます。
- 6：他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できます。「抗酸菌同定」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。
- 7：診察または画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。
- 8：保険請求の際は、「大腸菌血清型別」とご記入ください。培養の結果、大腸菌を確認し得ない場合、本実施料は算定できません。
- 9：当該点数が該当する場合、細菌培養同定検査の点数は算定できません。
- 10：大腸菌の抗原定性検査の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定できます。

【検査材料採取容器類】

容器番号	容器	検査材料
27	滅菌スピッツ管	尿・十二指腸液・胆汁・胃液・胸腹水・髄液・関節液・膿汁・分泌物（膿その他）・滲出液 など
39 40	スワブ	咽喉頭粘液・分泌物・膿汁・糞便 など
29	採便容器	糞便
69	ポリ喀痰容器	喀痰
37	カルチャーボトル	血液・髄液・その他の体液
34	嫌気ポーター	(嫌気性菌目的) 膿・胆汁・腹水

【検体採取時の一般的注意点】

- ・発病（発熱など）初期，化学療法以前に採取してください。
- ・化学療法中の場合，24時間以上中止，中止できない場合は，抗菌薬の血中濃度が最も低いレベルにある時期に採取してください。
- ・検体の乾燥を避けるため，輸送培地での採取をお願いします。
- ・検体の室温放置を避け，冷蔵保存（目的菌により例外があり，依頼書Ⅳ参照）してください。

【主な材料の採取方法と注意点】

- ・喀痰
 - －採取前にうがいをし，口腔内常在菌の混入を避けるように喀痰容器に採取してください。
- ・咽頭ぬぐい液（膿汁など）
 - －スワブ1号を用い，病変部以外には触れないように採取し，乾燥を避けるためた直ちに輸送培地に無菌的に入れ，速やかに冷蔵保存してください。
- ・糞便
 - －採便管に直接排便されたもので，膿粘血部分がある場合はその部分を拇指頭大入れてください。
 - スワブによる採取は検体が十分採取されないため，できるだけ避けてください。
- ・中間尿
 - －局所を消毒し，前半の尿を捨て，排尿を止めずに中間尿を採るようにしてください。
- ・血液
 - －採取部位の消毒はコンタミネーションを避けるため，確実に行ってください。カルチャーボトルに採取し，室温保存を厳守してください。

【喀痰の肉眼的品質評価】

Miller & Jones分類

M1	唾液，完全な粘性痰
M2	粘性痰の中に膿性痰が少量含まれる
P1	膿性痰で膿性部分が1/3以下
P2	膿性痰で膿性部分が1/3～2/3
P3	膿性痰で膿性部分が2/3以上

1 抗酸菌遺伝子検査の留意点《TaqManPCR法》

- 1) 血液混入検体，組織など材料によっては阻害物質により結果が偽陰性になる場合があります。
- 2) “参考材料”については，“検出せず”の場合，ご報告時に“参考値”のコメントを付記します。
- 3) 組織は生材料にてご提出ください。
- 4) 血液の採取に当たっては，フィブリンの析出防止のため，必ずEDTAを用いて採取してください。
ヘパリン-Naは使用しないでください。
- 5) 検体は，冷蔵保存してください。（菌株は常温保存してください。）
- 6) 液状検体は1mL以上ご提出ください。
- 7) 検査結果において“陽性”は結核菌あるいはMACの存在を示唆しますが，“検出せず”の場合，必ずしも結核菌あるいはMACの存在を否定するものではありません。
塗抹，培養など他の検査との併用により，総合的な診断をお願いします。

【臨床材料と検査可否】

	喀痰	胸水	腹水	胃液	髄液	気管支洗浄液	尿	膿	関節液	組織	血液	骨髄液	糞便	菌株
結核菌群同定-DNA	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	○
MAC同定-DNA*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	○

○：受託可能材料 △：参考材料 ×：受託不可材料

*：他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみ実施料適用となります。

微生物学検査

1 鏡検における検出菌数記載法

記載法	蛍光法 (200倍)	Z-N法 (1,000倍)	備考(相当するガフキー号数)*
—	0/30視野	0/300視野	G0
±	1~2/30視野	1~2/300視野	G1
1+	1~19/10視野	1~9/100視野	G2
2+	>20/10視野	>10/100視野	G5
3+	>100/1視野	>10/1視野	G9

(抗酸菌検査ガイド 2020)

*ガフキー号数は現在では使用しません。また、簡易法との一致は正確ではありません。

2 抗酸菌感受性用薬剤および濃度

抗結核薬	略号	濃度
イソニアジド	INH	0.2, 1.0
リファンピシン	RFP	40
ストレプトマイシン	SM	10
エタンブトール	EB	2.5
カナマイシン	KM	20
エンビオマイシン	EVM	20
エチオナミド	TH	20
サイクロセリン	CS	30
パラアミノサリチル酸	PAS	0.5
レボフロキサシン	LVFX	1.0

(新結核菌検査指針)

*LVFXは抗結核薬に指定されていませんが、多剤耐性結核例に使用されているためご報告しています。

菌種別 抗菌薬セット一覧表

◆腸内細菌・ブドウ糖非発酵菌 Escherichiacoli (大腸菌) Serratia (セラチア菌) Pseudomonas aeruginosa (緑膿菌) Acinetobacter (アシネトバクター) など	ABPC CMZ TAZ/PIPC ST	PIPC CTRX GM FOM	CEZ IPM/CS AMK	CAZ MEPM MINO	CFPM AZT LVFX	CTM SBT/ABPC CPFX
◆ブドウ球菌 ◆エンテロкокカス (腸球菌)	PCG CVA/AMPC LVFX	ABPC GM VCM	CEZ ABK ST	CZOP CAM FOM	CDTR/PI CLDM (MPIPC)	IPM/CS MINO (β-ラクタマーゼ)
◆ストレプトкокカス (A群溶連菌)	PCG MINO	ABPC LVFX	CTX VCM	CTRX CDTR/PI	CAM CFPN/PI	CLDM
◆肺炎球菌	PCG IPM/CS	ABPC FRPM	CTX CAM	CTRX CLDM	CDTR/PI MINO	CFPN/PI LVFX
◆ヘモフィルス	ABPC MEPM (β-ラクタマーゼ)	CVA/AMPC FRPM	CCL CAM	CTX CP	CTRX MINO	CDTR/PI LVFX
◆淋菌 (ディスク法)	PCG	CTX	CMZ	LVFX	TC	
◆ブランハメラ (ディスク法)	ABPC MEPM	CVA/AMPC FRPM	CTX LVFX	CAZ ST	CAM (β-ラクタマーゼ)	RXM
◆嫌気性菌	PCG CVA/AMPC	ABPC CLDM	PIPC MINO	CZX SPFX	FMOX CP	IPM/CS

*各検出菌ごとに上記薬剤でご報告します。上記以外でのご報告はできかねますのでご了承ください。

*上記一覧の菌種(群)に該当しない場合は、当センターにて薬剤の選定をします。